

孔子

2018年追試

問2 中国では時間の運行も含め、自然の秩序や政治的秩序が天と結び付けられていた。その天についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

12

- ① 周の王たちは、万物はすべて天の支配のもとにあるという信仰を背景として、自らを天と同一視し、自身の下す命令がとりもなおさず天命であると考え、王の権威を神聖化した。
- ② 孔子は、「怪力乱神」を語らず、神秘的な存在について積極的に言及することを避ける一方で、「五十にして天命を知る」と述べ、天から与えられた使命を果たそうとした。
- ③ 孟子は、天命を受けた者が天子となって天下を治めるという考え方を逆転させ、実力本位で王の位についた者を、天命を受けた者として事後的に承認すべきだという易姓革命の考えを説いた。
- ④ 莊子は、気質の性ではなく、本然の性こそが天によって与えられた理であるとし、天の理に従って自らを律することが人間の正しい生き方であると主張した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第2問	問2	12	②	3

2017 年本試

問 8 儒家の家族観についての記述として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

18

- ① 孔子は，祖先に対する祭祀儀礼を批判し，生存している自分の父母や家族を最優先に考えるべきだと説いた。
- ② 『論語』では，父母に対する孝や兄に対する悌といった徳目が重視され，それらが仁の根幹であると説かれている。
- ③ 孟子は，基本的な人間関係を五倫としてまとめ，「父子」の間には「親」という関係が成立すると説いた。
- ④ 朱子学では，個人の修養や国家の安定などとともに，家族・親族の人間関係をうまく取り仕切る「齐家」の実践が要請された。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 8	18	①	2

2016 年本試

問 1 次の文章は、孔子の礼についての説明である。文章中の **a** ～ **c** に入る語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 **11**

孔子は、社会を支える規範として礼を重んじたが、それは、単に外形的なものではなく、内面性に裏打ちされるべきであると考えた。つまり、他者を愛する心持ちである **a** が、立ち居振る舞いや表情・態度として外に現れ出たものが礼であるとしたのである。その実現には、私利私欲を抑えるとともに、他人も自分も欺くことなく、他人を自分のことのように思いやることが重要とされた。このうち、自分を欺かないことは、 **b** と呼ばれる。このようにして礼を体得した **c** によって、秩序ある社会の実現も可能であると孔子は考えた。

- ① a 恕 b 忠 c 真人
- ② a 恕 b 忠 c 君子
- ③ a 恕 b 信 c 真人
- ④ a 恕 b 信 c 君子
- ⑤ a 仁 b 忠 c 真人
- ⑥ a 仁 b 忠 c 君子
- ⑦ a 仁 b 信 c 真人
- ⑧ a 仁 b 信 c 君子

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 1	11	⑥	3

2016 年追試

問 2 次のア～ウは、仁や義について論じた古代中国の思想家の説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 12

ア 孔子は、肉親に対して自然に発する親愛の情を仁の根本においた。彼は、これを様々な人間関係に広げることのできる優れた人が為政者となれば、人民は為政者に感化され、国家がよく統治されると考えた。

イ 董仲舒は、他者を思いやる心と正義の実現を根本においた、仁義による王道政治を重視した。彼は、気質の性に起因する欲望を抑え、本然の性に回帰することが仁義を達成するために必要だと主張した。

ウ 老子は、儒家の説く仁や義などの徳は、人間が作為した相対的なものにすぎないと批判した。彼は、人々が、絶対的な道のはたらきに身をゆだね、あるがままに生きる小国寡民の政治を理想とした。

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 正 |
| ② | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ④ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑦ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |
| ⑧ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 誤 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 2	12	③	3

2015 年本試

問 1 孔子とその弟子たちの言行録である『論語』の言葉として**適当でないもの**を、
次の①～④のうちから一つ選べ。 11

- ① 智慧出でて大偽あり。
- ② 巧言令色，鮮すくなし仁。
- ③ 故ふるきを温めて新しきを知る。
- ④ 孝悌なる者はそれ仁の本たるか。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 1	11	①	2

2015 年追試

問 8 次のア～ウは，中国の思想家が述べた，あるべき実践や修養についての説明であるが，それぞれ誰のものか。その組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。

18

- ア 万物に恵みを与えながらそのことを誇らない水のように，世間的な欲望を抑え，謙虚に他者に接して生きるのがよい。
- イ 自己中心的でわがままな欲望に流されることなく，社会的に通用している規範である礼に自覚的に従うのがよい。
- ウ ものごとに内在する道理を正しく把握し，意識を集中させ，つつしみをもって振舞うのがよい。

- | | | | | | | |
|---|---|----|---|-----|---|-----|
| ① | ア | 老子 | イ | 孔子 | ウ | 朱子 |
| ② | ア | 老子 | イ | 孔子 | ウ | 王陽明 |
| ③ | ア | 老子 | イ | 韓非子 | ウ | 朱子 |
| ④ | ア | 老子 | イ | 韓非子 | ウ | 王陽明 |
| ⑤ | ア | 莊子 | イ | 孔子 | ウ | 朱子 |
| ⑥ | ア | 莊子 | イ | 孔子 | ウ | 王陽明 |
| ⑦ | ア | 莊子 | イ | 韓非子 | ウ | 朱子 |
| ⑧ | ア | 莊子 | イ | 韓非子 | ウ | 王陽明 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 8	18	①	3

2013 年本試

問 4 孔子と孟子の思想を表す次の文章中の ・ に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

他人を思いやることを孔子は と呼び、生涯、これを実践していかなければならないと説いた。また、孟子は他者の苦しみや悲しみを見過ごすことのできない心を の心と呼び、これを養い育てることによって仁徳は完成されると説いた。

- ① a 恕 b 惻 隠
- ② a 義 b 惻 隠
- ③ a 恕 b 辞 讓
- ④ a 義 b 辞 讓

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 4	15	①	2

2013 年追試

問 3 孔子が説いた、礼を重視する生き方の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

14

- ① 仁と義を原則とした秩序を尊重するとともに、法に基づく礼を実践することによって、家族の^{きずな}絆を強固にしようとする生き方。
- ② 親よりも社会のことを第一に考え、いにしへの聖人が定めた礼楽刑政を自ら実践し、他者にもそれを促していく生き方。
- ③ 平等な社会を実現するために差別なき愛に基づき、自らの利益よりも常に他者のことを考え、万人に対して礼を実践していく生き方。
- ④ 上下の序列に基づいた秩序を尊重し、その秩序を礼の実践によって維持するとともに、他者に対する思いやりを重視する生き方。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 3	14	④	2

2011 年本試

問 1 文章中の に入る語句として正しいものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

孔子は、死については知り得ないが、学び上達することの喜びは現に今ありありと感じられるのだから、生の続く限り となるべく学び向上を続けよと説くに至った。

- ① 至大 ② 天子 ③ 君子 ④ 真人

問 2 孔子が説いた「道」は、老子によって批判されているが、両者の「道」についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 孔子は、天下に秩序をもたらす道徳的な道を説いたが、老子は、それを作為的なものだと批判し、万物を生み育てる自然の根源としての道を説いた。
- ② 孔子は、万物を貫く理法としての客観的な道を説いたが、老子は、それを精神を疲労させるものだと批判し、心の本性に従う主体的な道を説いた。
- ③ 孔子は、子が親に孝の精神をもって仕えることを道としたが、老子は、それを差別的な愛だと批判し、自他の区別なく平等に愛することを道とした。
- ④ 孔子は、人間を処罰して矯正する礼や法を道としたが、老子は、それを人民に脅威を与えるものだと批判し、それらを捨てた自然の状態を道とした。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 1	5	③	2
第 2 問	問 2	6	①	3

2010 年本試

問 5 次のア～エは諸子百家の思想家たちの考え方であるが、それぞれ誰^{だれ}の思想であるか。その組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

9

ア 人は先王によって定められた礼を身に付ければ争いを未然に防ぐことができ、各自が社会規範を守れば社会秩序は維持される。

イ 天命によって天子となった者も、ひとたびその徳を失えば新たな有徳の者にとって代われるが、その革命には武力も認められる。

ウ 高い徳を積んだ人格者が政治に当たれば、その徳はおのずから国民を感化して秩序が保たれ、国家は安寧に統治される。

エ 厳正な法に基づく信賞必罰によって利己的な本性を抑止すれば、国民は罰を恐れて悪事をなさず、安定した国家統治が実現できる。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| ① | ア | 韓非子 | イ | 孟子 | ウ | 孔子 | エ | 荀子 |
| ② | ア | 韓非子 | イ | 荀子 | ウ | 孔子 | エ | 孟子 |
| ③ | ア | 荀子 | イ | 韓非子 | ウ | 孟子 | エ | 孔子 |
| ④ | ア | 荀子 | イ | 孟子 | ウ | 孔子 | エ | 韓非子 |
| ⑤ | ア | 孔子 | イ | 荀子 | ウ | 韓非子 | エ | 孟子 |
| ⑥ | ア | 孔子 | イ | 孟子 | ウ | 荀子 | エ | 韓非子 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 5	9	④	3

2009 年本試

問 1 文章中の に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ
選べ。

中国にあっては、老子は、「怨みに報いるに徳を以てす」と、怨みのある者に報復
したいと思っても、人間としての徳をもって対応したいものだという。また、他者
に対する思いやりを と位置づけた孔子は、「直^{ちよく}を以て怨みに報ゆ」と言った
が、これもまた自分に怨みを抱く者に対しても公平無私な態度で対応すべきである
と解釈することができる。いずれも、復讐を肯定する当時の社会に警鐘を鳴らして
いる。

① 敬

② 恕

③ 仁

④ 忠

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 1	5	②	2

2009 年追試

問 1 文章中の に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

一人では生きられない我々には、互いに他者を おもんばか 慮る気持ちが必要である。そのような他者への尊敬や好意は、お辞儀や笑顔のように、身体を通じて表される。この意味で我々の身体は、他者との交流を支える基盤である。 が人を愛する心としての仁だけではなく、それが態度や行動となって現れた規範としての礼をも重んじたのはこういった理由からであろう。

- ① 孔子 ② 老子 ③ 墨子 ④ 孫子

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 1	4	①	2

2006 年本試

問 1 文章中の に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

古代中国においても、 は、自らの過去を振り返って、十代で学問に志したことから始め、「六十にして耳順^{したが}う、七十にして心の欲するところに従^{のり}いて矩をこえず」と、真の自由を得た境地として老いを述べている。

- ① 孟子 ② 孔子 ③ 荀子 ④ 墨子

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 1	4	②	2

2006 年追試

問 4 儒家に関する説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

7

- ① 民を苦しめる礼楽を否定し，犠牲的な奉仕の精神で儉約に努め，万人が等しく愛し合い，戦いを行わない世界を築くべきであると主張した。
- ② 家族に対する親愛の情こそが社会関係の基本であり，社会関係の様々な局面にそれを広めていくことが，人として生きる道であると主張した。
- ③ 学問修養によって聖人君子となるべきだと主張し，そのよりどころとして，孔子の著書を集成した「四書五経」を根本経典とみなして重視した。
- ④ 人間の本性を道徳によって変えることは，根本的に不可能であると主張し，法律や刑罰によって民を厳しく取り縮まることを重視した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 4	7	②	3

2005 年本試

問 5 孔子が説いた仁の実践として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ
選べ。

6

- ① 人間の道徳性を現実化しようとする，根源的な気力を養い育てていく。
- ② 柔和でへりくだった態度をとり，周囲の人と極力争わないように努める
。
- ③ 名称とそれが示す具体的な事柄とを一致させて，社会秩序を強固にする
。
- ④ 自分勝手な欲望に打ち勝ち，^{いにしえ}古の理想的な行動基準に自分を従わせる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 5	6	④	3

2004 年本試

問 6 儒教の「仁」と墨家の「兼愛」の相違を述べる文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

7

- ① 儒教の仁は惻隱そくいんの心に基づき、自他の区別を一切たてないが、墨家の兼愛は自分を捨て、他者のために利することを第一とする。
- ② 儒教の仁は弱者に対するものであり、まず女性や子どもに向かうが、墨家の兼愛はまず貧しい者に対するものであり、「憐れみ」と呼ぶべきである。
- ③ 儒教の仁は近きより始まるもので、まず近親に対するものであるが、墨家の兼愛は無差別の愛であり、親疎の関係に基づくものではない。
- ④ 儒教の仁は「忍びざるの心」と言われ、見過ごしにはできないという単なる気持ちだけだが、墨家の兼愛は行動的な博愛主義である。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 6	7	③	3

2000 年本試

問 5 倫理を専ら社会的な規制や規範として語り、それらを形式的に守ることのよしあしだけを論じるならば、我々は社会のあり方と自己との結びつきを断ち切り、人と人との関係のあり方を見失うことになるのではないだろうか。このような問いかけに関して、先哲たちの営みはそれぞれどのようなものであったか。彼らの営みとして最も適当なものを、次の①～⑧のうちからそれぞれ一つずつ選べ。ソクラテスについては に、孔子については に、ブッダについては に、イエスについては に答えよ。

- ① 若いころから様々な知識や技能を習得し、博識の学者となったが、何でも知ることをよしとしたのではなく、知るといふことは知っていることを知っていることとし、知らないことを知らないこととすることだと教えた。
- ② 多神教を背景とする部族社会に生じた不公正な富の配分や利己主義の蔓延を批判し、富裕な支配者層からの迫害を受けながらも、終末の審判を行う唯一神への信仰を説き、その信仰に基づく共同体の建設に努めた。
- ③ 苦しみ、傷つきながら生きている人々の声に聴いて、自己中心的な生き方を越え互いに分け隔てなく愛し合うことを教え、日常的であるが故に形式的な遵守にかたむきがちであった規範を根本的に問い直した。
- ④ 人が苦しみを厭いながら苦しみを重ねていくのは、すべては依存しあつて成立しているという真理について無知であるためだと考え、この真理を正しく知り他者に対しても慈しみの心を起こすべきだと論じた。
- ⑤ 人間は社会的動物であると考え、よき市民がもつべき倫理的な徳は、過多や過少に陥らない行為を反復することによって形成されると論じ、現実的な視点から社会において友愛や正義が果たす役割を考察した。
- ⑥ 秩序の解体の危機に接して、親しい人への自然な愛を人間関係の基本として秩序に主体的に従うことが追求されるべきだと考え、正しい人が人々の上位に立つならば民衆は和合してその人に付き従うと説いた。
- ⑦ 苦行を通じて自己と絶対者との一体化に至ることが一切の苦悩からの解放の道であるという教えに対して、人生の苦しみの原因は自己に執着する

ことにあると考え，恒常不変の自我という存在を否定した。

- ⑧ よく生きることは正しく生きることであるという前提に立って，国法に従うことを正しいと自ら同意したのであるから，その同意を破るべきではないと述べ，不当な判決には服すべきではないと説く友人の言葉を退けた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第1問	問5	5	⑧	3
第1問	問5	6	⑥	3
第1問	問5	7	④	3
第1問	問5	8	③	3